

□特 集

令和元年京都府人口動態統計（概数）の概要

合計特殊出生率が 0.04 ポイント低下

—全国は 0.06 ポイント低下—

老衰による死亡率が上昇

—依然として悪性新生物による死亡が最も多く、総死亡数の 28.4%を占める—

自然減少数が初めて 1 万人を超える

—自然増減率は 0.6 ポイント低下、依然として自然減少が続く—

府健康福祉総務課

はじめに

人口動態統計は、出生・死亡・婚姻・離婚及び死産の 5 種類の「人口動態事象」について、その実態を把握し、人口及び厚生労働行政施策の基礎資料を得ることを目的として実施されています。

出生、死亡、婚姻及び離婚については、「戸籍法」による届出書から、死産については、「死産の届出に関する規程」による届書等から、その届出を受けた市区町村長が調査票を作成します。

これらの調査票は、保健所長、都道府県を經由し、厚生労働省に提出されます。

厚生労働省では、これらの調査票の毎月分及び年間分を集計して、人口動態統計月報（概数）、人口動態統計年報として公表しています。

この概要は、平成 31 年 1 月 1 日から令和元年 12 月 31 日までの間における京都府分について取りまとめたもので、数値は概数です。

1 出 生

—出生数は 4 年連続で減少、

出生率は 0.2 ポイント低下—

令和元年の出生数は、1 万 6993 人で前年より 916 人減少し、初めて 1 万 7 千人を下回りました。

出生率（人口千対）は 6.7 で、前年に比べ 0.4 ポイント低下しました。

近年の出生数の推移をみると、昭和 48 年の第 2 次ベビーブーム期のピーク（4 万 4885 人）以降減少し、昭和 62 年（2 万 6603 人）には昭和 41 年（ひのえうまの年）の 2 万 7755 人を、平成 26 年（1 万 9583 人）には 2 万人を下回るなど、回復する年があるものの、減少傾向が続いています。（表 1、図 1）

表 1 人口動態総覧、対前年比較

（単位：人）

	実 数					率		率（全国）	
	令和元年	平成 30 年	増減	増減割合（%）	平均発生間隔	令和元年	平成 30 年	令和元年	平成 30 年
出 生	16,993	17,909	△ 916	△ 5.1	30 分 55 秒	6.7	7.1	7.0	7.4
死 亡	27,025	26,654	371	1.4	19 分 26 秒	10.7	10.5	11.2	11.0
（乳児死亡）	34	31	3	9.7	257 時間 38 分	2.0	1.7	1.9	1.9
（新生児死亡）	10	13	△ 3	△ 23.1	876 時間 00 分	0.6	0.7	0.9	0.9
自 然 増 減	△ 10,032	△ 8,745	△ 1,287	14.7	…	△ 4.0	△ 3.4	△ 4.2	△ 3.6
死 産	359	362	△ 3	△ 0.8	24 時間 24 分	20.7	19.8	22.0	20.9
婚 姻	11,497	11,491	6	0.1	45 分 42 秒	4.5	4.5	4.8	4.7
離 婚	4,022	4,046	△ 24	△ 0.6	2 時間 10 分	1.59	1.59	1.69	1.68

注 1 平成 30 年は確定数

2 出生・死亡・自然増減・婚姻・離婚率は日本人人口千対、乳児・新生児死亡率は出生千対、死産率は出産（出生+死産）千対

3 算出に用いた京都府の人口は、令和元年 = 2,527,000 人（令和元年 10 月 1 日現在・都道府県・男女別人口（日本人人口））

4 自然増減：出生数から死亡数を減じたもの

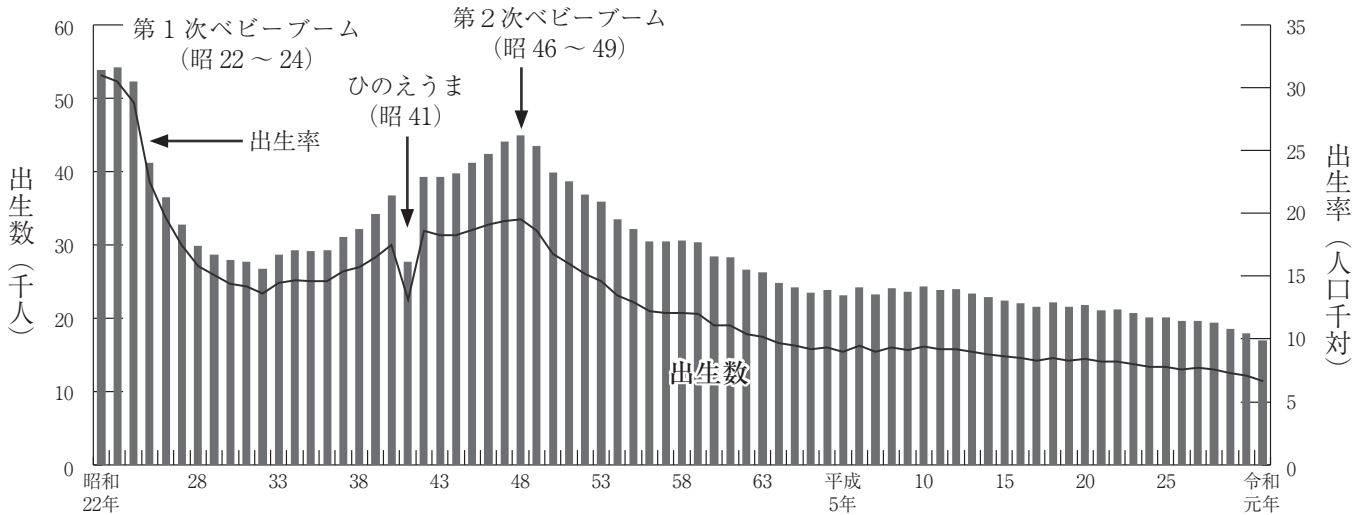
5 乳児死亡：生後 1 年未満の死亡数

6 新生児死亡：乳児死亡のうち、生後 4 週未満の死亡数

7 死産：妊娠満 12 週以後の死産の出産

8 平均発生間隔：1 件当たりの事象発生が、どれだけの時間間隔をもって発生したのかを表したもの

図1 出生数・出生率の年次推移



合計特殊出生率は 1.25

—前年より 0.04 ポイント低下
 全国は 0.06 ポイント低下—

令和元年の合計特殊出生率は 1.25 で、前年の 1.29 より 0.04 ポイント低下しました。

母の年齢階級別にみると、最も出生率が高かったのは、30～34歳の層で、出生率は 96.2（出生数 6154 人）となりました。

30～34歳の出生率は、昭和 53 年以降上昇傾向にあり、平成 12 年には、25～29歳の層を上回り、その後は出生数・率ともに第 1 位となっていますが、平成 27 年（出生率 102.3）をピークに低下傾向が続いています。

第 2 位は、25～29歳の層で、出生率は 61.1（出生数 4032 人）となり、これまでの最低数値（平成 26 年 64.4）を下回りました。

第 3 位は 35～39歳の層で、出生率 59.2（出生数 4262 人）となりました。35～39歳の層は上昇傾向が続いており、25～29歳の層との出生率の差が昭和 53 年は 165.7 ポイントありましたが、令和元年には 1.9 ポイントまで縮小しています。

第 4 位は 20～24歳の層で出生率 18.0（出生数 1278 人）となり、出生率については、4 年連続で 20 を下回りました。（図 2）

図2 母の年齢階級別出生率の年次推移(人口千対)

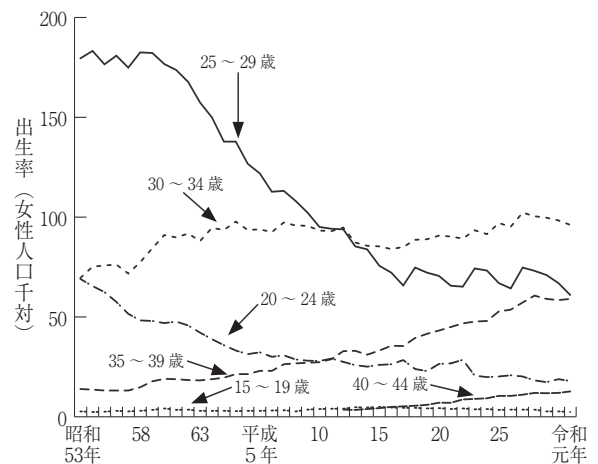


表2 合計特殊出生率の推移

年次	京都府	全国
昭和 40 年※	2.02	2.14
45 ※	2.02	2.13
50 ※	1.81	1.91
55 ※	1.67	1.75
60 ※	1.68	1.76
平成 2 年※	1.48	1.54
7 ※	1.33	1.42
12 ※	1.28	1.36
17 ※	1.18	1.26
18	1.19	1.32
19	1.18	1.34
20	1.22	1.37
21	1.20	1.37
22 ※	1.28	1.39
23	1.25	1.39
24	1.23	1.41
25	1.26	1.43
26	1.24	1.42
27 ※	1.35	1.45
28	1.34	1.44
29	1.31	1.43
30	1.29	1.42
令和元年	1.25	1.36

※は国勢調査年

合計特殊出生率とは、その年の 15 歳から 49 歳までの女性の年齢別出生率を合計した値で、その年の女性の年齢別出生傾向が将来も変わらないと仮定した場合、1 人の女性が一生の間に生む平均の子供の数に相当します。

2 死 亡

ー死亡数は増加、死亡率は0.2ポイント上昇ー

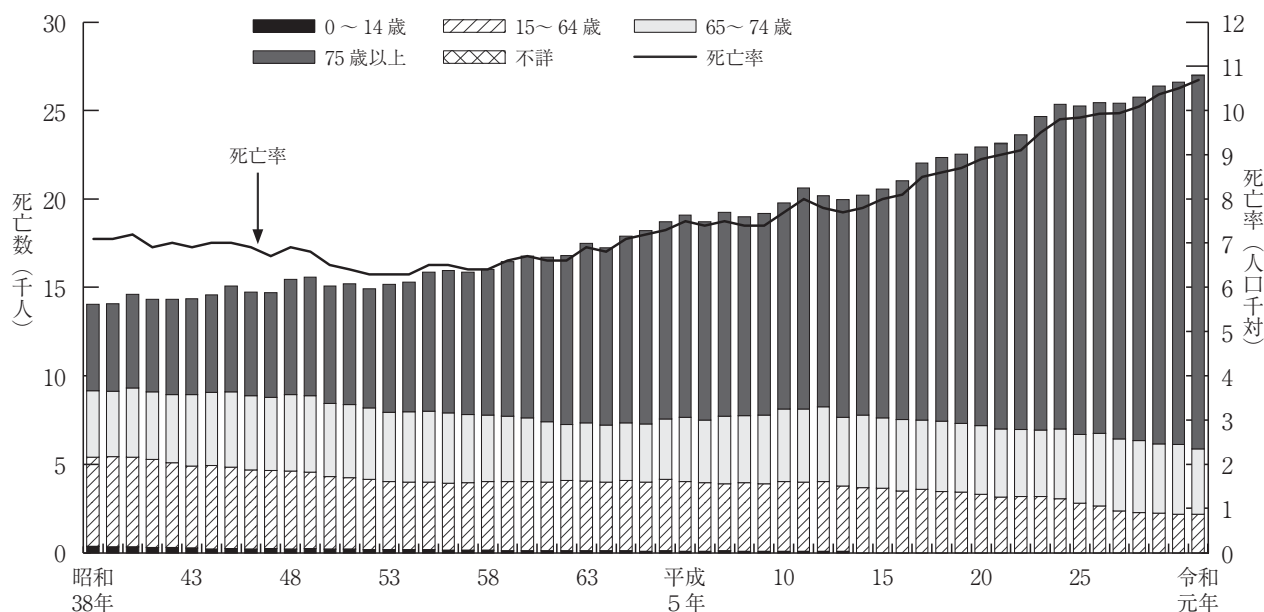
令和元年の死亡数は2万7025人で、前年より371人増加し、死亡率（人口千対）は10.7と4年連続で10を上回りました。（表1、図3）

死亡数の推移をみると、昭和44年以降1万5千人～1万9千人台で推移していましたが、平成11年に2万人台となって以後、ゆるやかな増加傾向が続いています。

年齢別死亡数では、0～14歳及び65～74歳の世代は前年を下回りましたが、それ以外の世代は増加しました。

死亡率は昭和35年（死亡率7.7）以降低下傾向にあり、52～54年に3年連続6.3と戦後最低を記録した後、ゆるやかな上昇に転じ、平成13年（同7.7）以降は上昇傾向が顕著になり、令和元年は10.7で過去最高となりました。（図3）

図3 死亡数・死亡率の年次推移



3 死 因

ー老衰による死亡率が上昇ー

死因順位の第1位は悪性新生物（がん）で、令和元年の死亡数は7670人で、前年より41人減少、死亡率（人口10万対）は303.5で、前年より0.2ポイント低下しました。悪性新生物による死亡が総死亡数に占める割合は28.4%でした。

第2位は心疾患の4482人で、前年より39人増加、死亡率は177.4で、前年より2.4ポイント上昇しました。

第3位は老衰で、令和元年の死亡数は前年より216人増加の2337人、死亡率は9.0ポイント増加し、92.5となりました。

第4位は脳血管疾患の1929人で、死亡率は76.3となり、前年より3.8ポイント低下しました。

第5位は肺炎で、死亡数は1635人、第6位は不慮の事故で、死亡数は571人でした。自殺は、死亡数が314人となり、前年より24人減少しま

した。自殺死亡率は12.4でした。

また、悪性新生物、心疾患及び脳血管疾患の3大生活習慣病による死亡が総死亡数に占める割合は、52.1%となりました。（表3、図4）

ー悪性新生物（がん）部位別トップは「肺」ー

悪性新生物（がん）の主な部位別死亡率（人口10万対）をみると、第1位は前年に引き続き「肺」で死亡率は61.8、前年より3.2ポイント低下しました。

第2位は平成25年から引き続き「大腸」で死亡率は42.1、前年より1.3ポイント上昇しました。

第3位は「胃」で死亡率は34.2で前年より1.8ポイント低下しました。第4位は「肝」で、死亡率は22.6、前年より0.8ポイント上昇しました。

また、肺、大腸、胃の上位3疾患で悪性新生物死因総数の45.5%を占めています。（図5）

表3 死因順位

死因順位	令和元年	死亡数(人)	死亡率	死亡総数に占める割合(%)	平成30年	死亡数(人)	死亡率	[参考] 全国(令和元年)	死亡数(人)	死亡率
第1位	悪性新生物	7,670	303.5	28.4	悪性新生物	7,711	303.7	悪性新生物	376,392	304.2
2	心疾患	4,482	177.4	16.6	心疾患	4,443	175.0	心疾患	207,628	167.8
3	老衰	2,337	92.5	8.6	老衰	2,121	83.5	老衰	121,868	98.5
4	脳血管疾患	1,929	76.3	7.1	脳血管疾患	2,034	80.1	脳血管疾患	106,506	86.1
5	肺炎	1,635	64.7	6.0	肺炎	1,611	63.5	肺炎	95,498	77.2
6	誤嚥性肺炎	865	34.2	3.2	誤嚥性肺炎	811	31.9	誤嚥性肺炎	40,354	32.6
7	不慮の事故	571	22.6	2.1	不慮の事故	583	23.0	不慮の事故	39,410	31.9
8	腎不全	523	20.7	1.9	腎不全	485	19.1	腎不全	26,644	21.5
9	アルツハイマー病	428	16.9	1.6	アルツハイマー病	427	16.8	血管性及び詳細不明の認知症	21,370	17.3
10	血管性及び詳細不明の認知症	422	16.7	1.6	血管性及び詳細不明の認知症	413	16.3	アルツハイマー病	20,716	16.7

注1 平成30年は確定数
 2 死亡率は人口10万対

図4 主要死因別死亡率の年次推移(人口10万対)

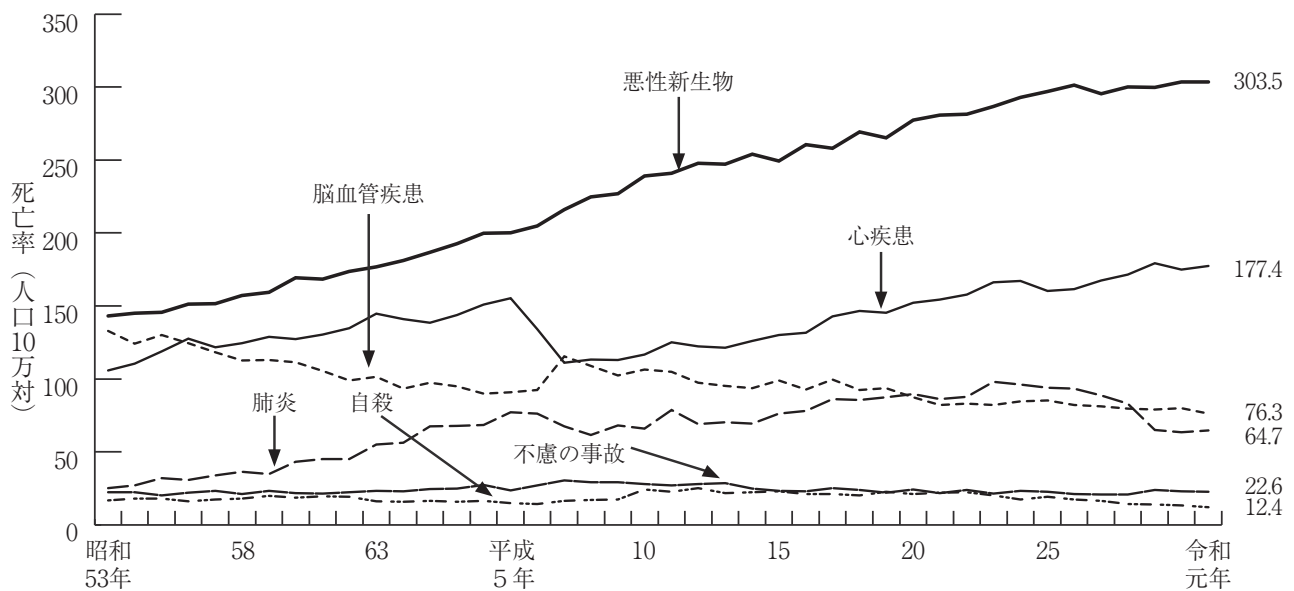
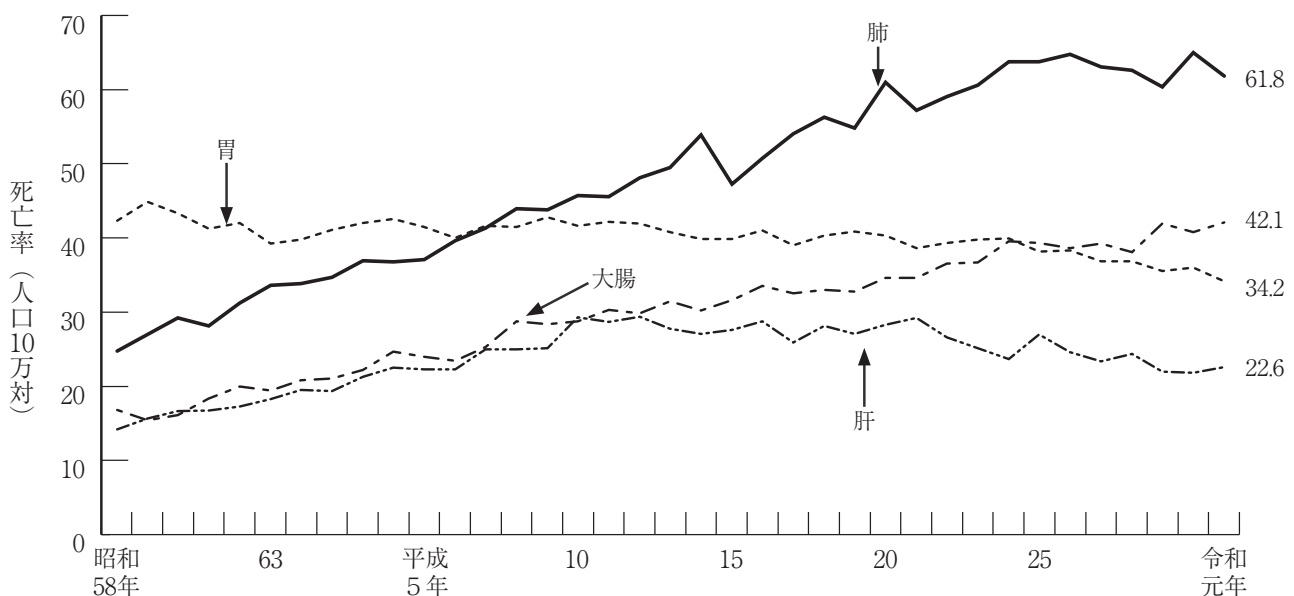


図5 悪性新生物(がん)の主な部位別死亡率の年次推移(人口10万対)



男女別死亡率をみると、男の死亡率（人口10万対）は、「肺」が平成3年以降第1位で、93.3となり、前年より2.0ポイント上昇しました。

第2位は「大腸」で47.1と、前年より2.6ポイント上昇し、初めて「胃」による死亡率を上回りました。

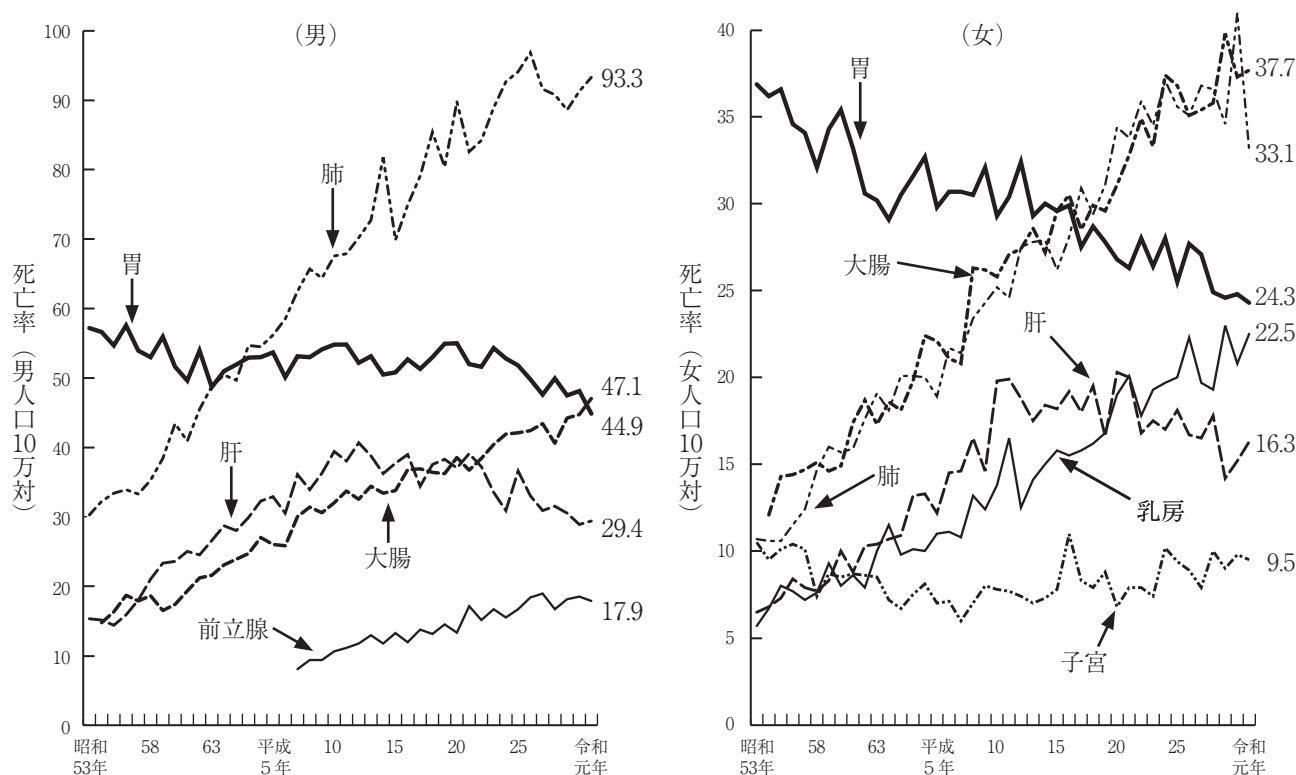
第3位は「胃」で44.9、第4位は「肝」で29.4となりました。

女の死亡率（人口10万対）は、「大腸」が37.7で第1位となり、前年より0.4ポイント上昇しました。

第2位は「肺」で33.1、第3位は「胃」で24.3となりました。

「乳房」は22.5で前年より1.7ポイント上昇し、「子宮」は9.5で前年より0.3ポイント低下しました。（図6）

図6 悪性新生物（がん）の性別・主な部位別死亡率の年次推移（人口10万対）



- 注1 文中、図5及び図6において肺とは、気管、気管支及び肺の悪性新生物である。
 2 文中、図5及び図6において大腸とは、結腸と直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物である。
 3 文中、図5及び図6において肝とは、肝及び肝内胆管の悪性新生物である。
 4 図6において大腸の昭和53年以前の数値は、旧厚生省で集計されていないため不明である。
 5 図6において前立腺の平成6年以前の数値は、旧厚生省で集計されていないため不明である。

4 乳児死亡・新生児死亡

一乳児死亡率は0.3ポイント上昇、

新生児死亡率は0.1ポイント低下

令和元年の乳児死亡数は34人で、前年より3人増加し、乳児死亡率（出生千対）は2.0で、前年より0.3ポイント上昇しました。

新生児死亡数は10人で、前年より3人減少し、新生児死亡率（出生千対）は0.6で、前年より0.1ポイント低下しました。（表1）

5 自然増減

一自然減少数は1万人を超える

出生数から死亡数を減じた自然増減数は、平成17年に初めてマイナスに転じて以降、自然減少が続いており、令和元年には1万32人となり、初めて1万人を超えました。自然増減率（人口千対）はマイナス4.0で、前年より0.6ポイント低下しました。（表1）

6 死 産

—死産率は0.9ポイント上昇—

令和元年の死産数は359胎で前年より3胎減少、死産率（出産千対）は20.7と、前年より0.9ポイント上昇しました。（表1）

7 婚 姻

—平均初婚年齢 夫は31.3歳、妻は29.8歳 男女とも晩婚化進む—

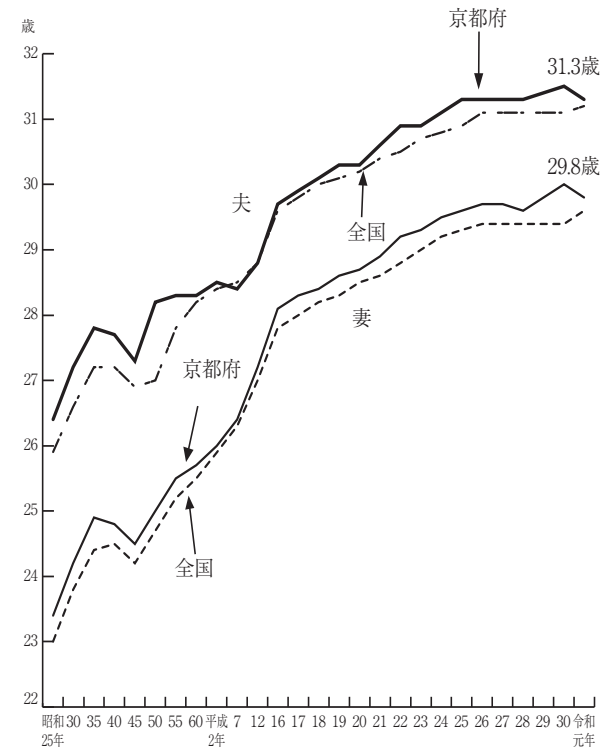
令和元年の婚姻件数は1万1497組で前年より6組増加し、婚姻率（人口千対）は前年同率で4.5となりました。（表1）

また、平均初婚年齢は、夫31.3歳、妻29.8歳で、夫、妻ともに0.2歳低下しています。

平均初婚年齢の推移をみると、昭和25年以降は上昇傾向が続き、昭和25年（夫＝26.4歳、妻＝23.4歳）と比べると、夫は4.9歳、妻は6.4歳上昇しており、男女とも晩婚化が進んでいます。

（図7）

図7 平均初婚年齢の推移



注1 昭和40年以前は、結婚式をあげた時の年齢、45年以降は、結婚式をあげた時又は同居をはじめたときの年齢
2 記載の年齢は京都府の初婚年齢

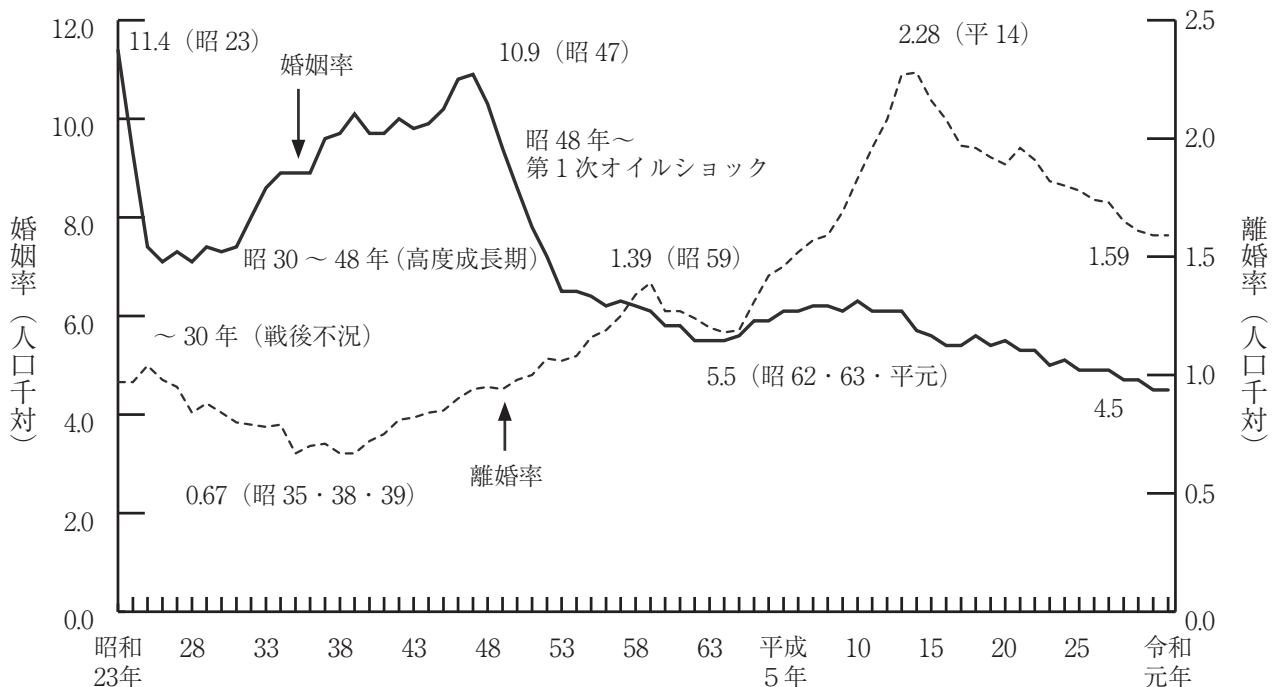
8 離 婚

—離婚件数は減少傾向が続く—

令和元年の離婚件数は4022組で、前年より24組減少し、離婚率（人口千対）は前年同率で1.59となりました。（表1）

離婚率の推移をみると、昭和35年、38年、39年に戦後最低（離婚率0.67）となった後上昇し、59年以降低下していましたが、平成2年から再び上昇に転じ、平成14年には過去最高の2.28を記録し、その後は低下傾向が続いています。（図8）

図8 婚姻率・離婚率の年次推移（人口千対）



第1表 人口動態（概数）保健所、市町村別（令和元年）

区 分	出生数			死亡数			乳 児 死亡数	新生児 死亡数	死 産 数	婚 件	姻 組	離 組	婚 組	自 然 増加数
	総数	男	女	総数	男	女								
総 数	16,993	8,755	8,238	27,025	13,642	13,383	34	10	359	11,497	4,022	△10,032		
京 都 市	9,495	4,914	4,581	14,769	7,408	7,361	20	7	209	7,216	2,251	△5,274		
その他の市町村	7,498	3,841	3,657	12,256	6,234	6,022	14	3	150	4,281	1,771	△4,758		
乙 訓 保 健 所	1,296	649	647	1,313	671	642	4	1	25	674	230	△17		
向 日 市	508	268	240	482	236	246	1	1	6	239	101	26		
長 岡 京 市	613	295	318	686	357	329	3	-	15	361	106	△73		
大 山 崎 町	175	86	89	145	78	67	-	-	4	74	23	30		
山 城 北 保 健 所	2,608	1,342	1,266	4,166	2,203	1,963	2	1	54	1,591	687	△1,558		
宇 治 市	1,033	553	480	1,746	950	796	1	1	23	662	320	△713		
城 陽 市	453	222	231	791	412	379	1	-	14	297	102	△338		
八 幡 市	402	213	189	721	366	355	-	-	4	274	117	△319		
京 田 辺 市	534	271	263	553	281	272	-	-	10	224	92	△19		
久 御 山 町	105	40	65	171	96	75	-	-	2	73	31	△66		
井 手 町	39	15	24	88	46	42	-	-	1	31	9	△49		
宇 治 田 原 町	42	28	14	96	52	44	-	-	-	30	16	△54		
山 城 南 保 健 所	914	479	435	1,007	500	507	2	-	20	422	181	△93		
木 津 川 市	668	362	306	582	281	301	1	-	12	284	128	86		
笠 置 町	4	3	1	26	11	15	-	-	-	4	-	△22		
和 束 町	13	6	7	71	39	32	-	-	2	12	7	△58		
精 華 町	222	103	119	281	140	141	1	-	6	119	45	△59		
南 山 城 村	7	5	2	47	29	18	-	-	-	3	1	△40		
南 丹 保 健 所	749	380	369	1,699	847	852	2	-	12	422	199	△950		
亀 岡 市	536	261	275	903	469	434	2	-	11	282	130	△367		
南 丹 市	171	95	76	514	242	272	-	-	1	109	54	△343		
京 丹 波 町	42	24	18	282	136	146	-	-	-	31	15	△240		
中 丹 西 保 健 所	661	345	316	951	466	485	-	-	14	378	149	△290		
福 知 山 市	661	345	316	951	466	485	-	-	14	378	149	△290		
中 丹 東 保 健 所	722	358	364	1,602	781	821	1	-	18	482	210	△880		
舞 鶴 市	565	276	289	1,015	504	511	1	-	10	364	164	△450		
綾 部 市	157	82	75	587	277	310	-	-	8	118	46	△430		
丹 後 保 健 所	548	288	260	1,518	766	752	3	1	7	312	115	△970		
宮 津 市	73	41	32	316	149	167	-	-	-	63	20	△243		
京 丹 後 市	342	184	158	817	421	396	2	1	6	181	65	△475		
伊 根 町	13	8	5	43	19	24	-	-	-	6	3	△30		
与 謝 野 町	120	55	65	342	177	165	1	-	1	62	27	△222		

